

【国語】 < 小学校 第5学年 >

1 結果のポイント

「話すこと・聞くこと」について、話し手が伝えようとしている内容を考えながら聞く力をみる問題等、ほとんどの問題の正答率が90%を上回っている。

「書くこと」について、目的や様式に応じて必要な事柄を選んで文章を書き換える力をみる問題では、正答率が90%程度である。

グラフをもとにして書く必要のある事柄を選び、グラフから分かることと、それについての自分の考えと理由を区別して決められた字数で書く力をみる問題では、正答率が60%を下回っている。

「読むこと」について、筆者が説明している内容について正しく読む力をみる問題では、正答率が80%近くある。

筆者の書き方の工夫を考えながら読む力をみる問題では、正答率が60%程度である。

「言語事項」について、正しい接続語を選ぶ力や、漢字を正しく読む力をみる問題では、正答率がすべて90%を上回っている。

漢字を正しく書く力をみる問題では、正答率が60%程度のものがある。

2 結果の分析

(1) 話し合いの進め方の工夫を考えながら聞く力をみる問題の例(「聞く能力」)

< 問題 > の四

この話し合いで、司会者はどのような進め方の工夫をしていますか。次のア～エの中から一つ選び、その記号をの中に書きましょう。

- ア 理由がはっきりしない発言をした人には、問い返して話し合いを進めている。
- イ 大森さんの意見に反対か賛成かが分かるように、発言を分けて話し合いを進めている。
- ウ 司会の仕方が分からなくなったときには、先生に確認して話し合いを進めている。
- エ 大森さんの意見に反対か賛成か、人数の差を確かめながら話し合いを進めている。

< 結果 > 正答率 89.5% (正答... イ)

< 分析 >

この設問は、大森さんのスピーチで提示された問題について、学級の意見を整理するために、司会者が反対と賛成の意見を分けて話し合いを進める工夫を聞く力をみる問題である。話し合い全体の流れに注意しながら、それぞれの意見を正しく聞き取り、司会者が、反対、賛成の意見をまとめて発表させる進め方の工夫をしていることに気付くことが大切である。の二の「分かりやすく伝えるための話し手の工夫を考えながら聞く力をみる」問題の正答率も90%を上回っていることから、話の内容だけでなく、話し方や話し合いの進め方の工夫を考えながら聞く力が身に付いていると言える。

(2) グラフをもとにして、書く必要のある事柄を選び、グラフから分かることとそれについての考えや理由を区別して、決められた字数で書く力をみる問題の例(「書く能力」)

< 問題 >

次のグラフは、全国の小学生に、「学校給食について感じていること」のアンケート調査を行った結果をまとめたものです。このグラフから分かることと、それについてのあなたの考えや理由を、五行以上七行以内で分かりやすく書きましょう。

< 結果 > 正答率 52.9% (正答... 略)

< 分析 >

この設問は、資料を読んで分かったことをもとに、自分の考えやその理由を決められた字数で書く力をみる問題である。無回答はわずかで、ほとんどの児童が分かったことと自分の考えや理由を記述しようとしていた。誤答としては、資料を読んで分かったことと給食についての自分の考えのうち、どちらかだけを書いたものが多くみられる。その要因として、資料から読み取ったことと結び付けて自分の考えを明確にすることや、自分の考えを述べるために説明すべき事柄を整理して選ぶことができないことが考えられる。この結果から、自分の考えを分かりやすく伝えるために、決められた条件の中で、目的や意図に応じて必要な事柄を集めて書く力を育てる指導が必要である。

(3) 分かりやすく伝えるための筆者の書き方の工夫を考えながら読む力をみる問題の例(「読む能力」)

<問題> ㉓の三

読書のよさを伝えるために、この文章で、筆者はどのような書き方の工夫をしていますか。次のア～エの中から一つ選び、その記号を□の中に書きましょう。

- ア 第1段落から第5段落まで数字をあげて説明し、第6段落で結るんを述べている。
- イ 第1段落で結るんを述べ、その後の段落で順番にそう考えた理由を述べている。
- ウ 第1段落で問いかける形で読み手を引きつけ、その後の段落で考えを述べている。
- エ 第6段落を問いかける形で終わり、読み手にその後を考えさせている。

<結果> 正答率 62.7% (正答...ウ)

<分析>

この設問は、筆者の文章構成の工夫をとらえながら読む力をみる問題である。誤答としては、「エ」が多かった。その要因として、「問いかける形」(問題提起)という工夫についての理解が十分でないことと、第2～6段落で述べられている筆者の考えを、文末表現に着目して読み取ることができないことが考えられる。この結果から、構成や文末表現等、筆者の表現の仕方に注意して、事象と感想、意見の関係を正しく把握する力を育てる指導が必要である。

(4) 4年生までに習った漢字を正しく書く力をみる問題の例(「言語に関する知識・理解・技能」)

<問題> ㉔の(2)(5)

(2)土を かためる。 (5) きょうつう点を さがす。

<結果> (2)正答率 63.9% (正答...固) (5)正答率 67.1% (正答...共通)

<分析>

この設問は、第4学年までに学習した漢字を正しく書く力をみる問題である。(2)(5)の誤答例として、「困」「供」など形の似ているものや、「型」「協」など、読みが同じものが多かった。その要因としては、児童が漢字の形、読み、意味を正しく理解できていないことが考えられる。漢字については、読むことに比べて書くことに課題がある。学習した漢字を繰り返し練習したり、授業で漢字を書く場や機会を多様に設定したりするなどの指導が必要である。

3 分析を踏まえた指導の改善

(1) 指導計画の工夫改善

根拠を明確にして自分の考えを書く活動の設定を!

- ・「書くこと」では、自分の考えを分かりやすく伝えるために、決められた条件の中で、目的や意図に応じて必要な事柄を集めて書く力を育てることが重要である。そのために、年間指導計画に日常生活や他の教育活動と関連させて具体的事例や体験を根拠にして書く活動や、多様な種類の文章を読んで考えたことについて書く活動を重点的に設定するよう見直すことが求められる。また、単元指導計画においては、書いた文章を他の人に読んでもらったり評価を受けたりする場を

必ず設定し、書くことの喜びや満足感が得られるように改善する必要がある。

表現の工夫をとらえ、自分の考えを明確にして読む活動の位置付けを！

- ・「読むこと」では、構成や文末表現等、筆者の表現の仕方に注意しながら読む力を育てることが重要である。そのために、「書かれている内容について、事象と感想、意見等を区別し、自分の考えを明確にしながら読むこと」を重点的に位置付けるよう年間指導計画を見直すことが求められる。また、単元指導計画について、文章の内容を的確に読み取って自分の考えを明確にする活動や、文章構成や書き方の工夫をとらえる学習を位置付け、内容と書き手の表現の工夫を併せてとらえることができるよう改善する必要がある。

(2) 指導方法の工夫改善

話し合いの仕方を具体的に理解できる指導の充実を！

- ・「話すこと・聞くこと」では、話し合い活動を通して、話し手の意図や共に考えたいことをとらえながら聞き取り、事実と感想、意見の組立てを工夫して話す指導の充実が求められる。グループ同士で相互評価したり、視聴覚機器を活用して自己評価したりする活動を通して、話し合いの仕方のポイントについて具体的に理解できるよう指導の改善を図りたい。また、全国学力・学習状況調査の課題としてもあげられた、どの児童にも司会を経験させ、実際の場面で司会者として提案の内容を聞き分け、整理することができるような指導を積極的に行う必要がある。

文章全体の展開を想定し、事柄を取捨選択、整理して書く指導の充実を！

- ・「書くこと」では、目的や意図に応じて、必要な事柄を集めて自分の意見を書く力を身に付けるための指導方法の工夫が大切である。これは、全国学力・学習状況調査の分析結果からも明らかになった課題である。事実や感想が効果的に構成されている文章のよさを見付けたり、複数の構成の中から適切なものを選んだりするなどの活動を通して、文章全体を見通して、書く事柄を適切に取捨選択したり整理したりできるよう指導の改善を図る必要がある。

筆者の表現の工夫をとらえながら内容を読み深める指導の充実を！

- ・「読むこと」では、説明的文章において、説得したり問題を解明したりする構成を理解しながら読みを深める指導方法の工夫が大切である。文章における事実と感想、表現の仕方の違いを吟味し、要旨を的確にとらえることができるようにしたい。また、筆者の考え、表現の工夫、自分の意見について、読み進める段階で常に整理し、関連させながら読みを深めていく指導を充実させる必要がある。

漢字に対する関心を深め、日常的に使う指導の充実を！

- ・「言語事項」については、児童が日常的に漢字を使う指導の充実が求められる。国語の時間に漢字の字形、筆順、読み方、意味等を理解する学習を通して、漢字に対する興味・関心が高まるよう配慮するとともに、他教科、学校生活、家庭学習等のあらゆる書く活動の中で、学習した漢字を使用したことを価値付けるなど、有用感もてる指導を充実させる必要がある。

(3) 学習環境の工夫、学習集団の育成等

読書に親しみ、学習に活用できる学校図書館利用指導の充実を！

- ・児童が学校図書館を日常的に利用できるように、図書の種類や検索の仕方等の利用指導を確実に行うとともに、読書活動、調べ学習を意図的、計画的に位置付けるよう指導計画を改善することが大切である。その上で、本の紹介や調べ学習についての交流等を行い、図書館の利用を活性化し、児童が図書館を活用することのよさを自覚できるよう配慮する。

児童が自ら取り組むことができる効果的な家庭学習の充実を！

- ・習った漢字を繰り返し練習したり、音読をしたり、日記を書いたりするなど、家庭学習に自ら取り組むことができるようにすることが大切である。授業と関連させて、取り組むとよい内容を紹介するとともに、適切な見届けや励ましを行うよう配慮する。

指導改善事例は、「岐阜県総合教育センターHP 教科教育等 学力向上P」授業改善（H16～18）及び授業改善推進プラン（H19～）」を参照する。[\(http://www.gifu-net.ed.jp/gec/\)](http://www.gifu-net.ed.jp/gec/)